

近年、異常気象で起こるはずのない・想定外の自然災害が各地で起こっています。些細な変化によって私たちの生活全体が脅かされています。実際に私たちは自然災害ではなく他の些細な出来事で自分自身が脅かされていることはないでしょうか？(マタイ28：1～14)人間にとって少しでも楽な生活をするのが大切になってきます。17～18世紀には貧富の差が大きく、一部の人たちが裕福な、楽な生活をしていました。そんな流れの中で「一部の人のみでなくみんなが知的な考えを共有でき、文明的な生活をし、人間の力で自然も制御して生活する」という啓蒙思想が生まれました。だから私たち人間は何でもできると思っていました。しかし最近になって楽をすればするほど自然は私たちに対して逆逆を始めた。地球に対して人間が悪いことをしたから地球が自然の流れを保とうと大きく動いているのです。これが私たちのやろうとしてきたことの行く末です。その結果、考えたこともない、人間の力ではどうすることもできない「想定外」なことが多くなりました。そして今人間は、自分がどれだけ無力なのかを考えさせられる時代なのではないでしょうか？自分勝手な行動をとっていませんか？地球がほんの一部の氷河を失う・本来の機能を失うことで全体の機能を失います。そしてくずれた氷河は流氷となって海を漂い下げるはずの無かった海水温度を下げ、生態系を壊し、行き交う船を傷つけ不安を与えます。私たち人間も同じようにこのころの一部が傷つき本来の目的を失うと本当の願いや考え、生きる指針を失います。そして、これらを失った人間は行く先々で他の人々を傷つけ、そこで本来起こるはずの出来事が起こらなくなってしまいます。私たちが傷つくことは自分だけの問題ではありません。それぞれが自分勝手な行動をしているとこのようにして私たちが本来進めなければならないことができなくなってしまうのです。だからイエスさまは私たちの痛んだこのころの傷や見失った目標のために十字架への道を進まれました。これがイースターです。イエスさまが十字架にかかったのは、私たちひとりひとりが十字架にかかったような痛みや苦しみを負う…これを全て身代わりになって受けてでも私たちに伝えたいことがあるからです。そしてその死の苦しみを乗り越えて復活されたことに意味があるのです。ところが壊されていませんか？「あなたの生きる目的は何ですか？」また、「この目的を果たすパートナーは誰ですか？」ときかれてすぐに答えられますか？電話は1つでは意味がない・テレビも観る人がいなければ意味がない…同じように私たちが自分の本当の目的を見失いパートナーを失っているとすると、私たちは自分の役割をどうやって果たすのでしょうか？私たちは1人で生きていくことはできないし、本来の生きる目的を見失っていると誰かと共に歩むことができせん。私たちが生きてきた背景を振り返ると多くの人が共に傷つきあい悲しい目にあってきました。人がコミュニケーションをとるのはお互いに幸せになりたいからで、傷つけあうためにとることはありません。本来の目的を失った行動をとるから得るはずだったものがお互いに得られなくなってしまうのです。そのせいで傷つき、結果、自分を守るために本当の自分を失って築きあげた偽りの自分を自身として動かしてしまうのです。私たちはこんな偽りの人生を続けて多くの人に影響を与えてしまっていて良いのでしょうか？パリサイ人にとって怖かったのは群衆がイエスキリストを先生と呼び自分たちから離れていくことでした。彼らが一番怖かったのは虚栄です。自分たちが築き上げてきたものを壊される恐怖です。そしてイエスキリストに嫉妬し非常に憎しみました。人間にとってこれが全てです。今ある自分の姿を壊すことができないプライド、虚栄と憎しみです。これらが私たちの傷の原因です。だから、イエスキリストがしたかったことは、地球が揺り動かされることにより、私たちの心が揺り動かされて私たちが変化することです。十字架にかかれた時も地震が起きて神殿の幕が真っ二つに割れたという話があります。また、イエスさまの復活の朝も地震が起きました。そして兵士が10人かかっても転がせるか分からない石が動かされ墓が開きました。イスラエルは地震が起こらない国です。だから地震が起こるのは旧約の時代から今に至るまで必ず意味があるのです。神さまが奇跡を起こした時だけなのです。私たちは小さな地震によってところが傷つけられています。だから神さまはこの傷つけられたところとその経緯(過去)など全てを大きな地震を起こして新しくしたいと考えています。これが十字架の御業です。だから十字架の後、神殿の秩序が壊され新しくされました(ヨハネ2：19～21)。だから地震で壊し地震で墓を開けられたのです。神さまは今日私たちのところを揺り動かして古いもの、自分を守ろうと作り上げてきた偽りの自分を壊して新しくしたいと願われています。イエスさまは十字架で**①私たちのところを新しくされました。**『だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。』(Ⅱコリ5：1)とあります。私たちが今までにどんな生き方をしてきたとしてもイエスさまは十字架にかかることで私たちの過去を全て新しくしてください。古いままでは新しいものが入りません。私たちのところを神さまに向けて日々新しくつくりかえてもらいましょう。そして、イエスさまは十字架で**②私たちの先駆けとなられました。**未知の世界でも誰かが先に行ってくれると次に続くことができます。最初にやると言うことはとても大変で勇気の要ることです。人間の中で誰ひとりとして誰かのために命をかけようという人はいません。だからイエスさまはその先駆けとして十字架にかかれたのです。私たちの重荷はイエスさまによって背負われました。罪を犯しても赦されました。イエスさまは十字架にかかり私たちに『私があなたたちの先を進んでいるよ』と教えてくれています。三本の十字架の話があります。(ルカ23：39～43)罪人であっても悔い改めれば赦され「今日＝今」パラダイスに行くことができるのです。今まで自分が受けてきたものをどう捉えるかによるのです。このことをイエスさまは私たちの先に進み教えてくださっているのです。そして、イエスさまは十字架で**③私たちの失敗を益としてくださいました。**イエスさまが十字架で亡くなって弟子はガリラヤ湖に逃げました。しかし復活したイエスさまはマリヤたちに「ガリラヤ湖に行きなさい」と言われました。ペテロたちが失敗して逃げているガリラヤ湖に行けと言われたのです。神さまは私たちの失敗を益としたいと考えています。同じ失敗を何度も繰り返してしまう私たちに神さまは「最初に立ち返れ」と言ってくださいます。私たちにあってやり直す事ができるのはなんと素晴らしいことでしょうか。イエスさまがいてやり直しがきかないことは一切ありません。「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」(ローマ8：28)と書かれています。そしてやり直す時には今までの経験から「どうせ無駄」「やっても意味ない」とか言わないで、神さまの言われることに素直に聞き従いましょう。イエスさまは、私たちにあって取り返しがつかないと思っていたこと、「どうせ…」と言って諦めていたこと、傷ついて痛くて止めてしまったこと、悲しかったこと…これらを全て、十字架にかかり死んで復活されて揺り動かして新しくつくりかえてくださいました。私たちと共に生き、私たちの進む方向を示すと言っています。三本の十字架でイエスさまを神だと告白し素直に聞き入れパラダイスに行くことができた者になるかは私たちの決断次第です。イエスさまは私たちのことを愛し私たちの過去の全ての痛みを知っています。神さまには私たちのところはお見通しです。私たちが過去の傷によって正しい道に歩めず神さまから離れてしまっていて氷山のように漂流しているのであれば、今日神さまの元に戻りましょう。そして神さまが最初に私たちに創造し「良し」とされた姿に一日も早く近づきましょう。(要約者：行司佳世)